

排水処理をシステム化

小松電機
産業

機能追加・変更簡単に

制御機器製造の小松電機産業（島根県八雲村、小松昭夫社長）は、計測制御と監視装置を一体化した排水処理システム「パッケージ水神」を開発した。制御部分をソフトウェア化し、標準化することによって設置後の機能追加や変更が簡単に対応できる。操作の安全性も高いという。

集落排水処理向けに売り込む。従来、水処理施設の維持管理は専門家の経験に頼ってきたが、新システムでは、コンピュータに履歴を残すことにより、処理プロセスの実績と評価が可能になった。様々な処理パターンを検討し、現場に最適な方法を採用することで高いレベルの目標を達成できるとしている。

また、制御部分のソフトウェアを進めた。処理場ごとに機械の種類が異なるため注文生産がほとんどだったが、新システムでは標準機能のデータを交換することで、導入後の仕様変更にも簡単に対応。本体前面の液

晶入力装置で作動条件などを設定しながら、運転状態や計測値を画面で確認できるため、設定ミスの可能性が小さい。さらに、制御盤内の機械を操作する必要がないため感電事故の心配もなくなるという。

最大十五カ所の処理施設と四百五十カ所の中継ポンプ場の監視が可能。処理対象人口が五百人のタイプでは、電気工事などを含め二千二百四十万円。自動制御方式を採用した千八百人のタイプは同六千九百五十万円。